

# 20歳からスタート! 「国民年金」

成人式を迎えられたみなさん、おめでとうございます。

20歳になると、成人として多くの権利が認められますが、また、同時に新たな責任も加わります。国民年金に加入することもその一つです。

人生80年時代! いま私たちは一番長生きできる国に住んでいます。長生きできることは素晴らしいことですが、それだけ自分の一生を長い目でみた人生のプランニングが大切なものになってきたといえるでしょう。

まだ、「40年も先のことなんて…」と思うかもしれませんが、若いあなたも老年を迎える目がきます。また、長い一生の間にはどんなことが待っているかわかりません。そんな「もしも…」に備えられるのも国民年金です。

国民年金には20歳から60歳になるまですべての人が加入しています。

“20歳になったあなた” 国民年金に加入して大人の仲間入りをしましょう。

## 文芸

### 俳句

横芝俳句栗江会

墓参りするや笹鳴き迎へけり  
煤拂ひすめば新町生まれける

桑名 大行

柿の木にうれ柿残し笹子待つ  
清めたし心と体煤拂ひ

長谷川正子

煤拂ひ大笹両の手仁王立ち  
山茶花や荒野の中に紅を添へ

今関満喜子

大佛や鈴なりの僧煤拂ふ  
煙突の煤風に舞ふ煤拂ひ

福田 幸子

煤はひて替える柿のすがすがし  
遠耳に森の笹鳴きとらえけり

藤代 ゆう

妻居らぬ二年まどめの煤拂ふ  
弁慶の振舞ふ如く煤拂ふ

玉虫 栗扇

枋木路や早や柿すだれ家の軒  
新潟や余震おびえの年の瀬を

若梅あやめ

煤除けの祖母と佛と神の莫産  
一閃の日の射す雲間初日の出

選者 山口 一秋

ひこばえ俳句会 (五選句)

錦秋の重なり合ひし四方の山

浅野 茂子

落葉の城西並木空真青

池田 逸子

一人居の縁側広し冬うらら

伊藤 敬子

野水仙十九折の径のどこまでも

川島 孝夫

ジャンボ機の影を映せり鴨の池

向後 寛

落葉踏みまた落葉踏み奥の院

佐瀬 輝夫

豆叩く姿を囁しぬ冬鶉

布施 和代

下野のはや柿すだれ暮早し

若梅あやめ

横芝に漁村・忠敬天高し

渡部 和秋

### 短歌

何時よりかうつむき歩きあしならむ

吉岡 信子

声をかけられ友と知りたり

長谷川正子

病室の窓より入り来る朝の日に

宇井 ちい

病める心のはつかに奮ふ

田崎 尚美

公民館の真菰で作りし牛と馬

長谷川正子

幼き頃の七夕思ふ

宇井 ちい

けふもまた孫が話題に上りあつ

田崎 尚美

逢へる術なき女童思へり

佐瀬 初音

晩秋の櫻落葉が道を駆け

萩原 信一

わが足元に螺施を描く

西山満里子

日の沈み夕闇吾を包みくる

西山満里子

雲間より夕つ光は芒穂を  
祝福するがに照らしあるなり

八角 三枝

妻の逝き悲しけれども耐へるたり

笑ひ戻る日いつかあるべし

永藤 滋

茶畑の緑の間に白き花

黄の蕊包み咲きてゐにけり

秋葉 悦子

街並の路上にとつかと座りある

女子高生らの傍へ過ぎきつ

芹川 初子

み墓辺に元気でいますと語りつつ

夫に香たく十三回忌

池田 春江

久びさに零余子の飯の炊きあがり

厨にしるく野の香ただよふ

押尾 輝子

病める娘を見舞ふと来たる病院の

あまりに広く道順を問ふ

上総 晴子

長びける秋雨前線にいつかしら

ボットの白菜結球始む

鈴木 やす

ひと日ごと色の深まる柚子の黄が

まず目に入り雨戸あけゆく

選者 斎藤つね子

